

教育センターニュース

四日市市教育委員会 教育推進課・育ち支援課
 〒510-0085 四日市市諏訪町 2-2 (四日市市総合会館6階)
 (事務局) 四日市市諏訪町 1番5号 (四日市市役所9階)
 TEL 354-8255 (代) FAX 354-8475
 ホームページ <http://www.yokkaichi.ed.jp/e-center/>



教育推進課

学習者用タブレット端末の更新

令和8年4月より、学習者用タブレット端末が更新されます。Windows 端末から、ChromeOS 端末へ切り替わります。画面とキーボードを分けて使えるノートパソコンです。データは、端末ではなく、クラウド環境への保存となります。

「Google Workspace for Education」「SKYMENU Cloud」なども引き続き使えますので、効果的に活用し、「情報等を適切かつ効果的に活用して主体的に学ぶことができる子ども」の育成を図ってください。

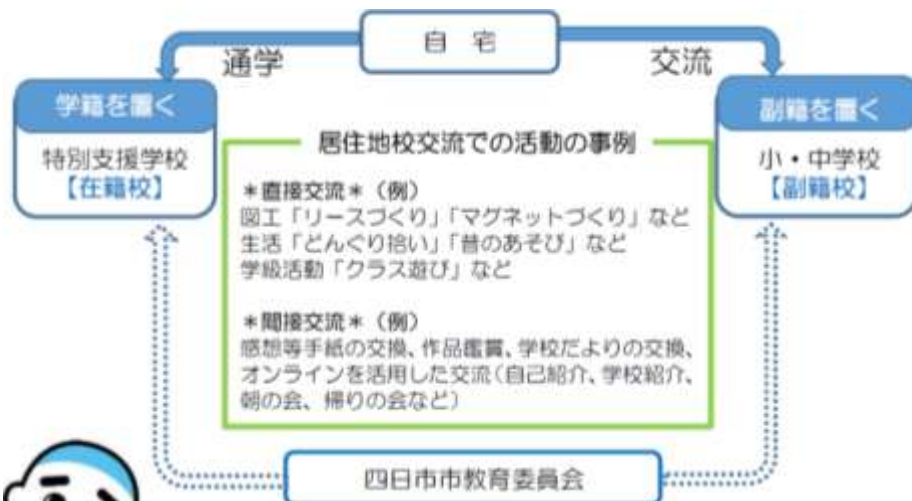


育ち支援課 特別支援教育・相談グループ

副次的な籍（副籍）について ～令和8年度から副籍の制度が始まります～

「副籍」とは、特別支援学校に通う児童・生徒が、居住地の小・中学校の学級に、副次的な籍をもつことを希望した場合に、居住する地域とのつながりの維持・継続を図る仕組みです。今まで行ってきた直接出会う交流の他に、本人・保護者の思いを聞きながら、年度初めから靴箱などを準備したり、手紙や作品の交換等を通して間接的な交流を行ったりします。

副籍を置くことで、同じ学校のなかまとして交流し、ともに活動することにより、お互いの存在感やなかまとしての意識を育てること、また、交流を重ねるなかで子どもたちの関係性を充実させることをめざします。



就学相談等を通して副籍の意味や居住地区校交流の意義を周知します。
 小・中学校における居住地区校交流を支援し、推進します。

四日市市教育委員会 育ち支援課
 TEL 059-354-8285

研究報告

令和7年度、取り組んできた研究を報告します。それぞれの研究にあたり、御協力いただきました学校及び関係教職員の皆様、関係機関に心よりお礼申し上げます。この研究の成果が、今後の実践に広く活用されることを願います。

第422集

教育推進課 研修員 中村 数理

論文本文はこちら



「自己選択学習」による国語科の物語の授業づくり —互いに解釈を深められる子どもを目指して—

本研究では、「自己選択学習」による物語の授業づくりをすることで、子どもたちが、学習を調整しながら、解釈を深められるかを検証しました。

本市が推進する「自己選択学習」について、「どのような学習形態なのか」「他の学習形態とどのような違いがあるのか」「どのような理論が背景にあるのか」等の視点で、様々な先行研究を紐解き、明らかにしました。

授業では、子どもたちの思いを大切にしながら、解決方法等を選択しながら学べるように構成しました。さらに、教科の本質的な学びが抜け落ちることのないように、手立てを講じました。

授業は、6月～11月にかけて、全3単元26時間で行いました。検証授業の前後で実施した質問紙とテストの結果から、「自己選択学習」で、子どもたちの学習の調整と解釈の深まりを促したことが示唆されました。

理論を中心に読みたい! P2～

実践を中心に読みたい! p17～

論文を概観したい! ①目的 p16 ②方法 p17～21 ③結果・考察 p71～75
(所要時間:約20分)



執筆者からの一言

授業実践の記録に、多くの紙幅を割きました。そこには、子どもたちの姿とともに、授業者の迷いや葛藤も率直に書きました。読者の先生方の、日々の授業での、目の前の子どもたちの姿と重ね合わせながら、読んでいただきたいです。



第423集

登校サポートセンター 指導員 田中 寿子 山田 芽衣
島田 裕子 関本 芙実香

論文本文はこちら



不登校対策の一助となる発達支持的生徒指導についての一考察 —「スリンプル・プログラム」の導入により見られる不登校傾向の生徒の変容—

SST（ソーシャルスキルトレーニング）やSGE（構成的グループエンカウンター）の技法が活用されたスリンプル・プログラムを実践することにより、不登校傾向にある生徒の欠席の増加や長期化を防ぐことにつながるのかを検証しました。検証には、調査対象校1校の5年間分のQ-U検査データの分析、事例生徒の質的分析、全校生徒や教員へのアンケートを用いました。

その結果、プログラムの実践により、欠席が増え始めた生徒が、その状態を長期化させることなく、年度末まで不登校に至らずにとどまる割合が高くなったことがわかりました。また、不登校リスク群の生徒におけるQ-U検査の結果からは、特に承認得点が増加する傾向がみられ、プログラムの経験年数が長いほどその増加の幅が大きいことが確認されました。さらに、楽しみながらプログラムに取り組む過程を通して、生徒の自尊感情やソーシャルスキルに対する自己評価が向上し、学級内での安心感の形成に寄与する可能性が示されました。



執筆者からの一言

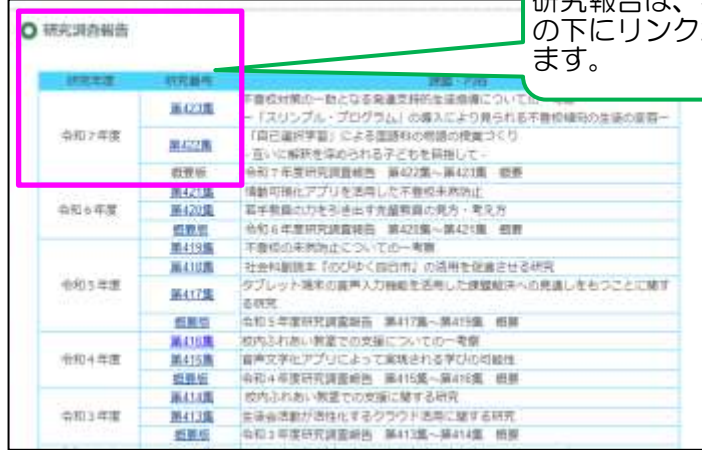
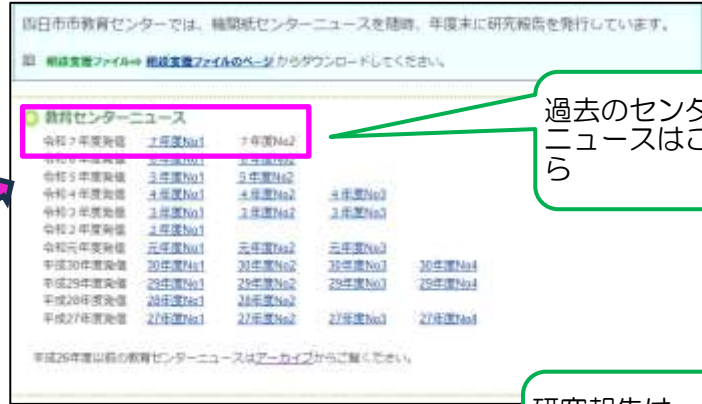
関わり合う力を育てる活動を学校全体で継続して実践することによって、学校・学級で過ごすことの安心感の形成に役立つことが期待できます。全ての児童生徒に対しての不登校の予防的な支援となります。



各研究の詳しい内容は、教育推進課までお問い合わせください。また、四日市市立教育センター・視聴覚センターのホームページで、閲覧・ダウンロードをして頂けます。
(下記をご参照ください)



上述の「研究報告」の詳細は、四日市市立教育センター・視聴覚センターのホームページ（「文書等ダウンロード」のページ）で、ご覧頂けます。また、今夏の教職員研修講座で研究報告を行います。ご参照頂き、日々の実践にご活用願います！



各論文とその概要版は
こちらから⇒



令和8年度夏季教職員研修講座に注目！研究報告を行います！

| 日時・場所 | 内容 |
|--|--|
| 令和8年7月29日(水) 9:30~12:00 (総合会館7階 第1研修室) | 登校サポート教員研修会②にて 「不登校対策の一助となる発達支持的生徒指導についての一考察」 ー「スリンプル・プログラム」の導入により見られる不登校傾向の生徒の変容ー 令和7年度登校サポートセンター指導員 田中 寿子 |
| 令和8年8月25日(火) 9:30~12:00 (総合会館8階 視聴覚室) | 鼎談 「子どもを学びの主体にする授業の具体（仮）」 新潟大学附属新潟小学校 指導教諭 中野 裕己 様 研究発表 「『自己選択学習』による国語科の物語の授業づくり」 ー互いに解釈を深められる子どもを目指してー 令和7年度研修員 中村 数理 |